

大学等におけるフルタイム換算データに関する調査（FTE調査） 調査票の検討について（案）

- ✓ 研究に専念する時間の確保に向けた取組について
- ✓ 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が研究活動に及ぼす影響について

検討事項①

- 研究に専念する時間の確保に向けた取組について

検討事項① - 研究に専念する時間の確保に向けた取組について

研究者の論文数が伸び悩み、国際的な論文数シェアの順位が低下が指摘されているなど、政府全体として**研究力向上が課題の1つ**となっている。また、**証拠に基づく政策立案（EBPM）**が進められており、研究者個人の論文創出状況と研究時間、教育にかかる時間、社会貢献業務の時間との関係性などを把握し、施策に反映することが求められている。上記について、FTE調査の中で調査できないか検討が必要である。

☆現在、想定されている案

「研究に専念できる研究時間の確保について」（総合科学技術・イノベーション会議 令和4年9月）における「研究に専念できる時間の確保に向けた取組」で挙げられている項目のうち、関連するものについて令和5年度の調査において情報が得られないか。



- ⇒**調査が可能なもの**（有意な結果が出る、結果を活かせる）
- ・**定量的測定が可能なもの** がよい

検討事項① - 研究に専念する時間の確保に向けた取組について



検討事項① - 研究に専念する時間の確保に向けた取組について

調査が可能と考えられるもの（案）

- ・技術職員等専門職人材の処遇改善
- ・URAの質及び量の確保

- ・教育教員と研究教員の役割分担の見直し

- ・大学内の会議の削減

- ・学会に関する事務作業について（追加）

- ・その他（研究DX・研究データの管理・利活用等）

検討事項① - 研究に専念する時間の確保に向けた取組について

- ・技術職員等専門職人材の処遇改善
- ・URAの質及び量の確保

各支援者について実数調査（絶対数の把握）。
 研究者の研究活動だけでなく、教育活動や事務に係る業務を補助している者も含める。

○ 令和4年度における個人又は研究室の業務を補助する支援スタッフ
 （個人における質問14の各時間を補う作業、業務を行う以下支援者について、それぞれの人数を記入してください。）
 ・令和5年3月31日時点の情報を記入してください。

1 修士課程学生	<input type="text"/>	人	2 博士課程学生	<input type="text"/>	人	3 ポスドク、その他の研究者	<input type="text"/>	人
4 URA	<input type="text"/>	人	5 技術職員	<input type="text"/>	人	6 事務スタッフ(秘書も含む)	<input type="text"/>	人

上記で研究を補助する支援スタッフがいると回答した場合
 （それぞれの支援スタッフについて、**1週間**の平均的な補助時間を記入してください。）
 ・各項目に複数いる場合は、それらを合計した時間を記入ください。

1 修士課程学生	<input type="text"/>	時間/週	2 博士課程学生	<input type="text"/>	時間/週	3 ポスドク、その他の研究者	<input type="text"/>	時間/週
4 URA	<input type="text"/>	時間/週	5 技術職員	<input type="text"/>	時間/週	6 事務スタッフ(秘書も含む)	<input type="text"/>	時間/週

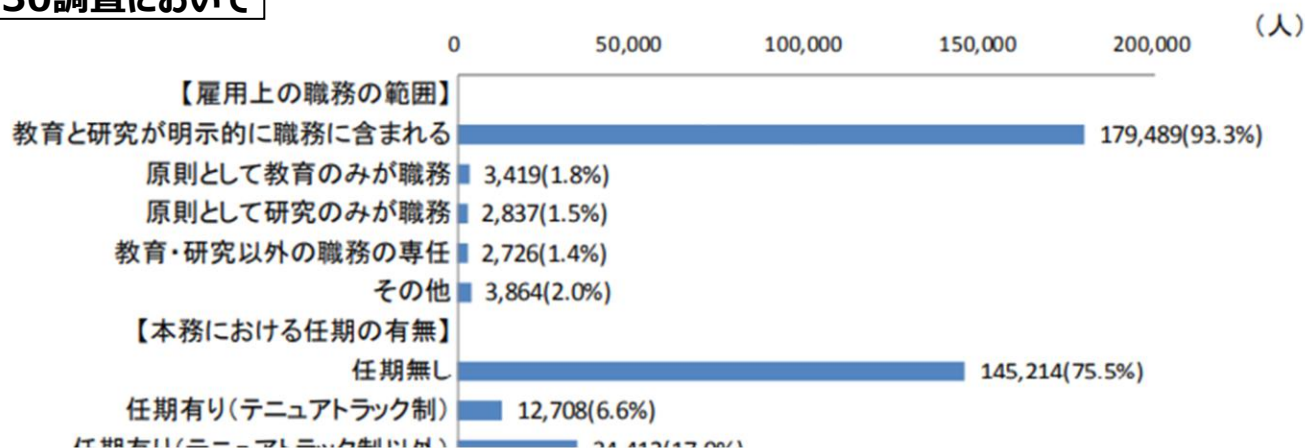
各支援者が研究者を補助した時間について、1週間単位で記入してもらおう。
 この時間が100%研究者の研究時間に回っているだけではないが、研究者の業務量を補助した分だけ、研究者の様々な時間を捻出させていることになる。

検討事項① - 研究に専念する時間の確保に向けた取組について

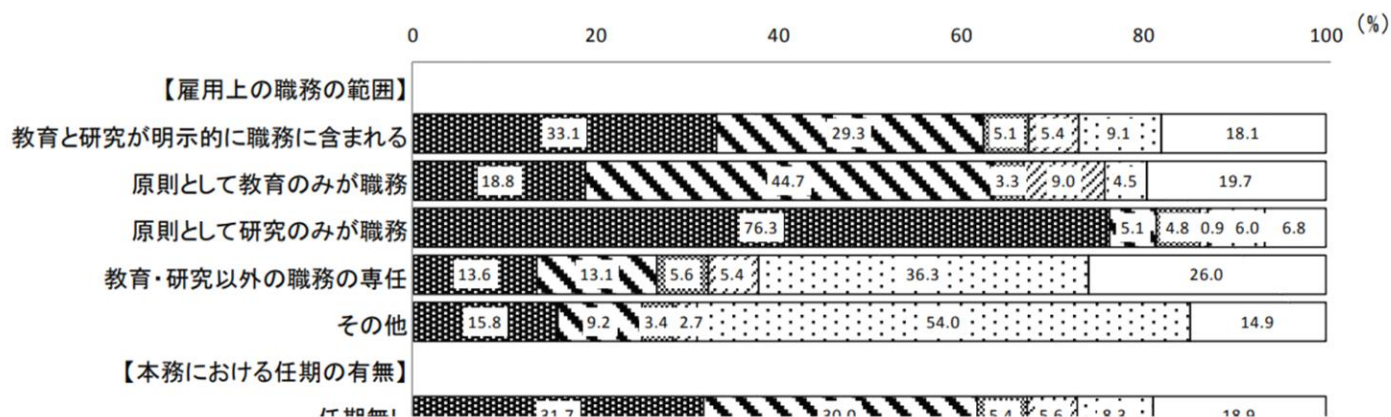
・教育教員と研究教員の役割分担の見直し

以前から議論にあがっているが、何処まで調査可能かは不明

H30調査において



母集団ベースだが、9割以上が教育も研究も職務として行っている。これを標本数ベースで換算すると、「教育のみ」が152人、「研究のみ」が126人のデータとなる（回答率などを考慮するとさらに少なくなる）。



「原則として研究のみが職務」の場合、研究時間割合は76.3%と非常に高い。事務割合（その他の職務時間）の他と比べて少ないことが伺える。

検討事項① - 研究に専念する時間の確保に向けた取組について

(授業・講義だけが教育活動ではないものの) 1週間当たりの授業・講義数(90分/1コマ)を調査することで、定量的な教育に係る業務量が調査可能。多くの教員が「教育と研究が明示的に職務に含まれる」ということで、担当している授業・講義数を調査することで、それが研究時間にどのように影響しているか把握可能。

- 令和4年度における大学教員として担当した授業・講義数
(質問14の(a1)「教育活動」における平均的な1週間の授業・講義数を記入してください。)
- ・90分を単位(1コマ)として記入してください。
- ・小数点が必要な場合は、1/2刻みで記入してください。(ex. 2.5コマ)

平均的な1週間の授業、講義数: コマ/週

専用サイトより

検討事項① - 研究に専念する時間の確保に向けた取組について

・大学内の会議を削減

学内には多くの会議が存在しており、この影響は大きいと思われる（H30調査において、「研究パフォーマンスを高める上で最も制約となっていること（研究時間）」において6割以上が「制約となっている」と回答）

定常的に参加している学内会議（この時間は「その他の職務活動」に含まれる）について、1ヶ月あたりの平均的な参加時間を記入してもらう。

○ 定常的に参加している大学内の会議
（質問14の「その他の職務活動」に占める、1ヶ月の平均的な学内会議の参加時間について記入してください。）

参加している1ヶ月の平均的な学内会議の数: 時間/月

検討事項① - 研究に専念する時間の確保に向けた取組について

・（追加）学会に関する事務作業について

前問に付随して季節業務ではあるものの、学会の運営などに係る時間（「研究に関連する社会サービス活動」に分類される）は多いのではないかと思われる。この時間を測ったことはこれまでなかったため、追加で問を立てた。

季節業務であることから、年間で単位に、学会等の運営等に係る時間について記入してもらう。一方で「研究に関連する社会サービス活動」が総職務時間の5.0%しか占めない中で、どれだけ定量的に資料が出せるかは難しいかと思われる。

- 学会に関する事務作業に係る時間
（質問14の「社会サービス活動（研究関連）」に占める、**1年間**の学会の**運営等**に係る時間について記入してください。）
・**学会発表のための**質問14の「研究活動」に係る時間は含めないでください。

学会のための事務作業に費やしている年間の平均的な時間:

時間/年

検討事項②

- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が研究活動に及ぼす影響について

<https://academist-cf.com/journal/?p=13309>

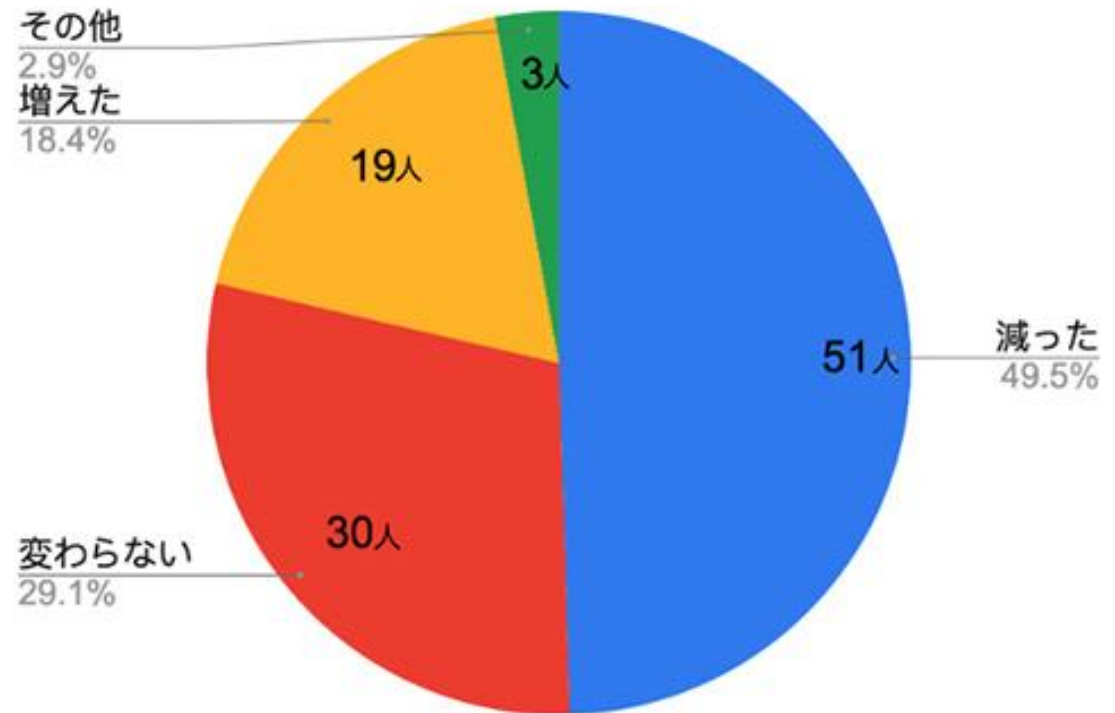
調査概要：コロナ禍に伴う研究活動に関する調査

実施期間：2020年5月11日(月)～20日(水)

調査方法：インターネット調査

調査対象：アカデミアの研究者（academist Journalの寄稿者、Twitterで御協力を表明していただいた研究者など。回答者の属性は下記の図を参照）

回答者数：103名



新型コロナウイルス感染症（COVID-19）における研究時間への影響が大きいため、これまでの調査と正確に比較するためには、この影響による補正が必要。

⇒一方で、コロナが研究時間にどれほどの影響を与えているか定量的に測定することは困難。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が、「研究活動」における時間に与えた影響について調査する項目を設置。定量的に測定することが（1日に〇〇時間の増 など）難しいことから、（案1）では影響の度合いについて選択肢で、（案2）では相対的な数値で令和4年度の研究時間を表してもらうことにした。

○（案1）新型コロナウイルス（COVID-19）が、質問14の「研究活動」における時間に与えた影響

（コロナ禍前と比較してどの程度影響があったか、以下の5つの選択肢から回答してください。）

・プラスの影響は研究時間の増加に繋がった、マイナスの影響は研究時間の減少に繋がったことを指します。

回答:

- 1 大きなマイナスの影響あり 2 ややマイナスの影響あり 3 影響なし 4 ややプラスの影響あり 5 大きなプラスの影響あり 6 該当しない・わからない

○（案2）新型コロナウイルス（COVID-19）が、質問14の「研究活動」における時間に与えた影響

（コロナ禍前における研究時間（質問14における「研究活動」に係る時間）を10とすると、現在（令和4年度）の研究時間はいくつになるか記入してください。）

・1年間単位でお考え下さい。

令和4年度における研究活動時間（コロナ禍前を10とする）:

検討事項② -新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が研究活動に及ぼす影響について

（案1）、（案2）は研究活動の時間に与えた影響のみを大まかに測る調査項目だったが、他の測定方法ということで（案3）及び（案4）を提示。（案3）では、研究活動全体ではなく、具体的項目の時間について、どれほどコロナが影響を与えたかを記入してもらうこととした。これにより、コロナで研究活動時間が減少したと述べるときに主にどのような要因があるかということが挙げられる。

○（案3）新型コロナウイルス（COVID-19）が、各研究活動の時間に与えた影響

（コロナ禍前と比較して各項目に係る時間においてどの程度影響があったか、以下の5つの選択肢から回答してください。）

・プラスの影響は研究時間の増加に繋がった、マイナスの影響は研究時間の減少に繋がったことを指します。

1 研究に関する情報・資料の収集、文献調査
（研究に直接関係しない個人的な学習、趣味としての読書等は除く）

2 研究に関する試作・実験・集計・分析

1 大きなマイナスの影響あり 2 ややマイナスの影響あり 3 影響なし 4 ややプラスの影響あり 5 大きなプラスの影響あり 6 該当しない・わからない

○（案4）新型コロナウイルス（COVID-19）が、質問14の各時間における時間に与えた影響

（案1）、（案2）パターンを想定

（案4）では研究活動に係る時間だけでなく、教育活動、社会サービス活動に係る時間についてもコロナの影響をどれほど受けたのか調査。教員にとってどの職務活動が最もコロナの影響があったのか、測定することが可能。